

### <総括>

試験時間	90分	総解答字数	1100字
------	-----	-------	-------

入江昭『歴史家が見る現代世界』（講談社現代新書、2014年）を用い、現代のグローバル化を過去のあり方と比較させることで、「惑星意識（プラネタリティ）」の重要性とその意識が徹底した社会がどのようなものとなるのかを考えさせようとする出題となっている。今年の出題は、現代社会のあり方についてダイレクトに問うという、名古屋大学法学部で頻出のテーマといえる。

なお、課題文は昨年の11ページから13ページに増加したものの、具体例を軸にした明快な論述であり、総解答字数も1400字から1100字へと減少していることを考え合わせると、受験生にとっては比較的取り組みやすい出題であったといえよう。

### <課題文の分析>

大問番号	
内 容 (主題)	グローバリゼーションと「惑星意識」
出 典 (作者)	入江昭『歴史家が見る現代世界』（講談社現代新書、2014年）
長短・ 難易等 前年比較	長短 (短い・やや短い・変化なし・やや長い・ <span style="border: 1px solid black;">長い</span> ) 難易 (易化・ <span style="border: 1px solid black;">やや易化</span> ・変化なし・やや難化・難化)

### <大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
	課題文型	学部系統的	問1	説明	300字	本設問では、現代社会のグローバル化の特徴を明らかにしながら19世紀から20世紀前半にかけてのグローバル化の状況と比較することが求められている。筆者は「ハイブリッドの世界」と題された部分で、19世紀の後半以降にグローバル化の流れの中で不安感を反映した人種論が盛んになったことを指摘し、そのうえでヒトやモノの交流がより徹底している現代のグローバル化との違いを論じている。文中に示されている現代に数多くみられるグローバル化の特徴をうまく整理することがポイントとなる。

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント (設問内容・論述ポイントなど)
			問2	論述	600 ~ 800 字	<p>本設問では筆者が「惑星意識 (プラネタリテイ)」の重要性を説く理由をまとめたうえで、こうした意識が徹底した社会がどのようなものとなるかを論じることが求められている。問1で問われたグローバル化が基本的には人間同士の関係に焦点を当てたものであるのに対して、筆者は「惑星意識」について「動植物や自然環境なども同じ惑星に存在するものとして、人間とともに共生共存していかなければならない、という認識」と述べている。このように、設問の要求にある惑星意識の重要性については、「惑星意識と環境問題」と題された箇所のはじめの部分を用いながら論じていけばよい。</p> <p>さらに「過去または現在の具体的な事例を挙げながら」説明せよという設問の要求に対しては、環境やエネルギーといった自然環境とかわりのある題材を事例として設定し、こうした事例にみられるさまざまな問題に対して、惑星意識が徹底した社会はどのようなものになるのかを考えていくことになる。</p>

※出題形式は「テーマ・課題文 (英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

### <答案作成上のポイント・学習対策等>

名古屋大学法学部の小論文は、個人の自由や権利、格差をめぐる議論など、社会のあり方そのものをめぐる議論を取り上げ、現代社会や政治経済といった公民分野の教科書に取り上げられている項目と、実際の政治や経済における出来事とがどのように結びついているのかを考えさせる出題が続いている。そのため、日ごろから新聞やニュース解説などをチェックして、自らの社会問題に対する感覚を養っておく必要がある。

これまでの出題傾向を顧みると、名古屋大学法学部の課題文は、理論的な内容を取り上げ、専門用語を頻繁に用いるなど難解なものが多い。そのため学習対策としては、北海道大学や金沢大学など、他の国公立大学の法政治系の過去問を使って、社会科学的概念操作を取り扱った問題に取り組むことが必要であろう。